

# 東京女子医大事件

# 改ざん「しつこく強要」

## 逮捕の医師 看護師長が供述

東京女子医科大病院で心臓手術を受けた平柳明香さん(当時17)が死亡した事故で、手術チーム責任者の医師瀬尾和宏容疑者(46)証拠隠滅容疑で逮捕から集中治療施設(ICU)記録の改ざんを指示されたとされる看護師長(39)が、20日までの監視庁の調べに「嫌だと抵抗した」と供述していることがわかった。

瀬尾医師は病院の人事などで発言力があつたといいい、牛込署に捜査本部を設けた監視庁は、立場を利用して、明香さんに起きた脳障害を隠すために改ざんを何度かにわた

って強要していたとみて実態を調べている。捜査本部によると、01年3月2日、心臓手術で人工心肺装置の操作を誤り、明香さんは脳障害を起して5日に亡くなつた。瀬尾医師はこの日、同大の日本心臓血管研究所ICU室で、看護師長(改ざんを)しつこく求められ、仕方なく応じた」と供述しているとい

う。さらに瀬尾医師は、3日後の8日、心臓血管研

究所の控室で、臨床工学技士(31)にも人工心肺装

置のポンプの回転数などについて虚偽の内容に書き換えるよう指示していたという。改ざんの強要について技士も監視庁に対し、看護師長と同じような趣旨の説明をしている。

その後、看護師長と臨床工学技士の2人は、改ざんを拒むようになったため、瀬尾医師自身が改ざんを続けたという。捜査本部は看護師長と

技士を近く証拠隠滅容疑で書類送検する。病院の調査報告によると、手術後の明香さんの瞳孔は「だだっ」たのに4と改ざんされていた。「7」の上に横線を書き加えて「4」にしていた。瀬尾医師は、明香さんが脳障害を起していたことを隠すために、瞳孔の数値書き換えを指示したとみられる。

瀬尾医師は、事故発覚後に設けられた学内の調査委員会に対し「4だったと思うので書き換えた」と説明、改ざんの趣旨を否定していた。瀬尾医師に接見した弁護士によると、瀬尾医師は監視庁のこれまでの調べに改ざんの指示については認めているが、自らの改ざんは「記憶のない」と説明しているとい

女子医大小児心臓手術事故

改竄

2002年6月29日 朝日新聞